



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより



ためし



令和7年11月14日号 文責 上久木田 雄二



いじめはなぜ減らないのか

私が幼いころ両親から良く言われていたことは、

弱い者いじめをしてはいけない

ということでした。私と同じ年代の皆さんであれば、「耳にタコ」「口酸っぱく」言われ続けた記憶があると思います。

私が幼いころに、「いじめ」がどのくらい認知されていたのかは分かりませんが、確実に変化したのは、「いじめの定義」です。

1986年ごろ

「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものであって、学校としてその事実を確認しているもの。」

1994年ごろ

「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。」

弱い者いじめ的な背景が見て取れると思います。

大きな変化があったのは、2006年ごろです。

「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」

その後、2013年頃より現行の、

「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍するなど、当該児童生徒と一定の人間関係にあるほかの児童生徒が行う心理的又は、物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」

という定義になりました。

定義の変化は、「苦痛の捉え方」の変化でもあります。

「深刻な苦痛」は、「心身の苦痛全般」へと変化し、

嫌な気持ちになればすべて苦痛

と捉えられるようになったころから、いじめの認知は激増しました。いじめることより、いじめられることに視点が集まるようになりました。

嫌な気持ちを抱かずして人生を送ることはありえないことを考えると、いじめの認知件数は、学校の対応能力を超えてしまうことになるのだと思います。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

